

報道関係者各位
プレスリリース

なぜ、人びとは抗議（=PROTEST）するのか？ イラストで学ぶ『プロテストってなに？ 世界を変えたさまざまな社会運動』 9月中旬発売！

株式会社青幻舎は、『プロテストってなに？ 世界を変えたさまざまな社会運動』を2021年9月中旬に刊行します。本書は、これまで世界各地で繰り広げられたさまざまな抗議活動を、豊富なイラストとやさしい文章とともに、分かりやすく紹介します。混とんとした現代を生きる私たちに何ができるのか、考えるきっかけを与え、そして解決へのヒントが見つかる一冊が完成しました。



著者への取材などご要望がございましたら、下記担当までご一報下さい。
何卒よろしくお願い申し上げます。

株式会社 青幻舎

〒604-8136 京都市中京区三条通烏丸東入梅忠町9-1大同生命ビル5F

TEL 075-252-6766 / FAX 075-252-6770

広報担当：楠田博子（kusuda@seigensha.com）／太田美留久（oota@seigensha.com）

■ 書籍概要

ある問題に気づいた人びとが、よりよい社会の実現のために、抗議（＝PROTEST）をすることがある。近年でも、SNS上で波及した「#MeToo」運動、民主化を求めた香港の「雨傘運動」、黒人差別に反対した「ブラック・ライヴズ・マター（BLM）」のほか、無数の抗議活動がおこなわれている。市民による抗議の歴史は、とても長く、ふるくは古代エジプトにまでさかのぼる。私たちが生まれるずっと前、人びとは不公平な世の中を変えようと団結し、行動を起こしていたのだ。

この本では、世界中で展開された約40の社会運動と、その解決に使われたユニークで発想力豊かな抗議の方法を紹介する。

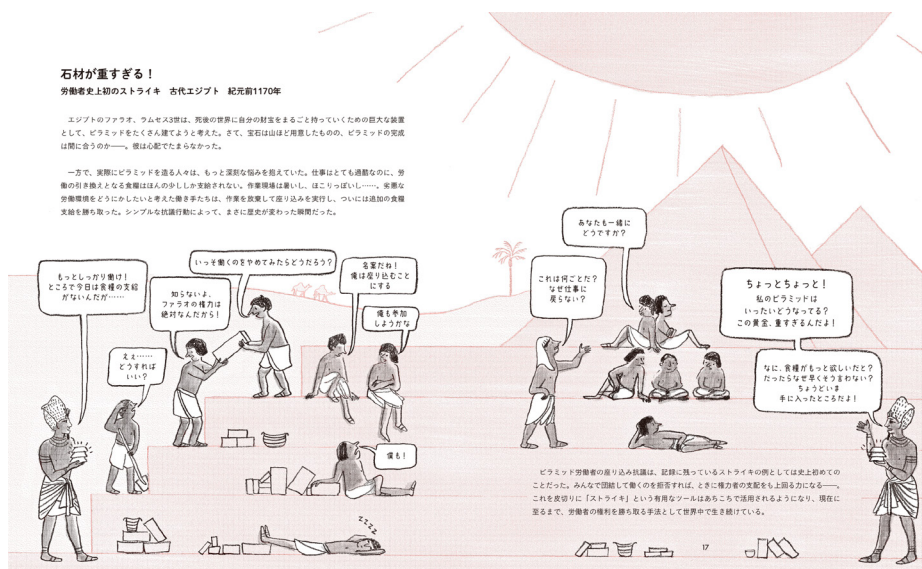
評論家 荻上チキ氏、推薦！！

楽しく読めば、知恵と気力が身に付いて、人に読み聞かせれば、
運動と連動が生まれる。さあ、次の戦略を考えよう。

■ 本文紹介

人類史上初とされる、座り込みストライキ！

ピラミッド労働者の座り込みは、世界最古のストライキ。みんなで団結して働くことを拒否すれば、横暴な権力者の支配をも上回る力になるということがわかった。これを皮切りに「ストライキ」や「座り込み」は世界中に広まり、労働者の権利を勝ち取る手法として現在も生き続けている。



■ 書誌情報

発売日：2021年9月中旬

書名：プロテストってなに？

世界を変えたさまざまな運動

著者：アリス&エミリー・ハワース＝ブース

翻訳：糟野桃代

帯文：荻上チキ

判型：B5変形／上製本

総頁：168頁

定価：本体2,000円＋税

ISBN：978-4-86152-841-5 C0036

■ 著者プロフィール

エミリー・ハワース＝ブース

受賞歴のある作家、イラストレーター。『くらやみきんしの国』（あかね書房、2020）と『The Last Tree』（未邦訳）は数々の賞にノミネート。現在、ロンドンのロイヤル・ドローイング・スクールで教鞭をとっている。

アリス・ハワース＝ブース

グラフィック・デザイナー、ライター。10年以上にわたり政治的なキャンペーンや活動家たちに向けた大胆でカラフルなビジュアルを担当。また、短編小説の受賞歴がある。



南アフリカを解放せよ
アパルトヘイト反対運動 南アフリカ 1940年代~90年代

17世紀ごろ、南アフリカでもほかの諸国と同じく、ヨーロッパの植民地主義国の入植が始まった。それ以来、黒人差別が人々の生活のなかに根深くはびこるようになる。

1948年、白人労働者の保護を訴えた国民党が政権を握り、それ以来、オランダ語から派生した種族主義的言語のアパルトヘイトで「人種隔離」を意味する「アパルトヘイト」が法制化されて確立した。黒人は白人の居住区にされた地域では暮らすことができず、それまで住んでいた家や地元のコミュニティを離れることになる。借賃金の半額にしか住みず、学校や病院なども白人向けのものに比べてずっと劣悪だった。さらに、政府は黒人たちの存在を常に管理しようとし、どこへ行くにも身分証の携帯を義務づけた「パス法」が制定された。

こうした状況のままではアパルトヘイト制により、黒人ははじめとする有色人種の暮らしが厳しくなるにつれて、「なんとも自分たちの権利を取り戻したい」と考える人々の立ち上がった。ネルソン・マンデラやオリバー・タンボ、ウォルター・シシラといった若き活動家は、新しい抵抗運動を提唱する団体に所属し、黒人の生活のなかに多くの運動を展開。人々は身分証を燃やしたり、アパルトヘイト法のルールをわざと破ったりして、人権擁護政策に反対した。

反対運動を行う人々は、バスやトイレやレストランで「白人専用」の看板を目にするなど、ちょうどアメリカの公民権運動者たちがやっていたように、あえて我慢するようだった。そして多くの活動家が逮捕されれば、やがて収監所もいっぱいになり、政府も方針を転換せざるを得なくなるのではないかと考えたのだ。

政府は、こうしたアパルトヘイト反対運動を徹底的に打ち止めようとした。刑罰には限界を超えて人を詰め込み、抵抗活動が組織しづらくなるように、ネルソン・マンデラをはじめとする活動家のリーダーを長期にわたり収監した。刑でデモが行われようものなら、警察が暴動を鎮圧して市民を攻撃した。

1960年ごろ、数千人の人がガトヘイトへの反対を訴えるため、逮捕されるのを覚悟のうえで、身分証を持たずにヨハネスブルグ郊外のシャープビルで集まり、平和的に抗議を始めた。だが、活動家たちを前に警察は銃撃を開始。逃げようとする人々をわざと追いつけてまで攻撃した。これにより多くの犠牲者が出たほか、数日のうちに国全体で数万人が逮捕された。

この「シャープビル虐殺事件」によって、アパルトヘイト反対運動家たちほどにか身を賭すか国外逃去を命じられたが、同時に南アフリカの人々に対して警察の目を惹きつけることになった。さまざまな面で抗議活動が生まれ、南アフリカが息絶している人々への声が高まると同時に、ニールも逃った。



黒人たちの戦い 「アパルトヘイトを撤廃せよ！」

南アフリカの黒人たちを苦しめた人種隔離政策。蜂起に参加した市民に警察は容赦なく武器を向け、彼らを導いたとされる活動家の一人、ネルソン・マンデラは投獄された。世界中の支援を受けながら、30年以上もの反対運動を経て、市民たちは制度の廃止をやっと手に入れる。歴史的に有名な抗議活動には、素晴らしいリーダーによって先導された事例もある。しかし、大切なのは、人びとが力を合わせる試みであり、主役は一人ひとりの個人なのだ。

フェミニズムの先輩たちの ウーマン・リブ運動

1970年のイギリスでは、伝統的な女性像からの脱却を訴える女性解放運動、「第二波フェミニズム」が産声を上げようとしていた。彼女らが願ったのは、一個人として尊重され、性差別や暴力を受けないこと。また、人生における選択の自由も、賃金も、地位も、男性と平等であること。そして、外見で判断されないことだった。これは約50年前のおおはなし。はたして誰もが安心して暮らせる社会は実現しているだろうか？



女性の団結
ウーマン・リブ運動 グローバル、1970年代以降

1970年のイギリスでは、伝統的な女性像からの脱却を訴える女性解放運動が産声を上げようとしていた。女性の参政権はそれより40年ほど前にすでに確立していたものの、戦いは終わっていません。いわゆる「第二波フェミニズム」が興ったのだ。彼女らが願ったのは、一個人として尊重され、性差別や暴力を受けないこと。また、人生における選択の自由も、賃金も、社会における地位も、男性と平等であること。そして、外見で判断されないことだった。

この年も前年どおり、「ミス・ワールド」コンテストの開催がロンドンで予定されており、フェミニズム運動家のグループは、この機会に身を持って抗議を繰り出すと考えた。そこで、模範的の競艇イベントを買い、おのりや酢酸を飲ませて観客席に押入る。コンテストのファイナリストが水着やドレスを着て競技を争うのを待たない。その間に、セクシーなイベントを準備し、人々の目を惹きつける。彼女たちが抗議のグループの意図は、最も驚かされたことだった。ファイナリストらがステージを占め、再会がまだいざジョークを飛ばしたところで、フェミニストたちは一斉に叫び出した。2階席からは美術品を投げ込み、「階席では抗議のチラシをばら撒き、水鉄砲で警備員にシークをぶちまける。会場はたちまち騒動になった。

騒動グループは警察に逮捕されたが、その目的は十分に達成された。コンテストの様子も世界中で放送されて、テレビで一瞬に映った人は個人以上。翌日にはどこでも、この騒動が持ち回った。「ウーマン・リブ（女性解放）」という言葉がお茶の間の人々にも浸透し、女性の権利を求めて戦うこのダイナミックな新しい動きに、社会の関心が集まってきたのだ。

これに呼応するように、世界のあちこちで、フェミニストがそれぞれ行動を起こしていった。

日本で有名なのは、「中絶法に法的に反対し、中絶を拒否する女性解放運動」を始して「中絶」だ、白いスリーブにピンクのヘッドを纏った女性の一団が、性差別の半端な発言を批判し、ときには不倫をしている現場に押し入り、騒ぎもあつた。

ベトナム戦争時には、ベトナムの女性たちが自らを暴力から守るため「女性委員会(Committee of Women)」を設立。その抗議はのそやかに仕掛けられた。たとえば、女性のグループが買い物でもするようになり、中絶がなくなる。そして軍隊、暴行にたいしてスリッパを投げつけて抗議する女性たちも登場した。あつたうにアメリカの支配に反対するスローガンが書かれた旗を掲げた女性たちも登場した。こうした抗議によって仲間が逮捕されれば、みんなでいざいざとあちこちを連れて、拘留所の外で長時間も居る込む。そのあり方のしに看守も降参して、収監されていた女性たちを解放したのだ。

アメリカでは、フェミニズム運動家が「自由の女神」を掲げた大きなぼとねを掲げ、社会から押し付けられた女性像を批判するようになり「女神」とは女神やライオン、アフリカン、つぎつぎと女神をその中にだんぜん入れられていった。

近年の事例では、シンガポールで2014年、ミニスカートを履いていた女性が「下品な服装だ」と罰せられ、路上で男性の車から暴行を受ける事件が発生した。これに抗議するデモが行われた。シンガポールの女性たちも、ほかの国界の境目にも目を向け、抗議について声を出していった。女性解放運動者から見たら、女性解放運動が成り立たないままに押し付けられたり、暴力にさらされたりする状況に、もう我慢の限界だったのだ。こうして、悪いの道を見て通りを占める女性たちの抗議が効果となり、シンガポールでもセクシュアル・ハララスメントが社会的な問題として取り上げられるようになった。

社会運動の例

- 不服従を示すネイティブ・アメリカンのダンス（アメリカ）／天安門に集った平和のストライカーたち（中国）／独裁政治を終焉に向かわせた「アラブの春」（エジプト）
- 環境保護を訴えた一人の少女の座り込み（スウェーデン） etc…

目次

はじめに 10	1. 古代の世界で起こった抗議活動 労働者史上初のストライキ 16 市民たちがローマを去る 18 ローマの女性たちの行進 20 抗議の方法：音 22	2. 中世の活動家たち カラブラ朝における反乱 26 ドイツ農民戦争 28 レヴェラーズとディガーズ 32 抗議の方法：植物を育てる 36	6. 独立と抵抗 塩の行進 80 ナチスへの抵抗運動 82 カセロラソ 86 抗議の方法：食べ物 88	7. 自由と公民権 公民権運動 92 ストーンウォールの反乱 98 アバルトヘイト反対運動 100 抗議の方法：スポーツ 106
3. 入植者たちを追い詰めた抵抗運動 アメリカ先住民のゴースト・ダンス 40 マオリ族による抵抗運動 44 奴隷制の戦い 48 抗議の方法：言葉 52	4. 階級闘争 フランス革命 56 ピーターラー 60 メーデー 62 抗議の方法：何もしない 64	5. 女性の権利 サフラジエツト 68 アベオクタの女性たちの反乱 72 ウーマン・リップ運動 74 抗議の方法：交通手段 76	8. 立ち上がる者たち 学生たちの抗議運動 110 チプロ運動 112 グリーンナム・コモン 114 平和キャンプ 114 抗議の方法：キャンプ 116	9. 市民の力による革命 ソリダリノシチ運動 120 ピール・パワー革命 122 天安門事件 124 ベルリンの壁崩壊 128 抗議の方法：アート 130
			10. 行動を起こし、声を上げる エイズとの戦い 134 パレスチナ人の抵抗運動 136 シアトルの戦い 138 抗議の方法：演劇 140	11. 世界的な蜂起 アラブの春 144 おもちゃの抗議 146 香港 148 ブラック・ライブズ・マター 150 抗議の方法：デジタル 152
				12. 新しい草の根運動 ダコタ・アクセス・パイプライン抗議運動 156 エクステンション・レベリオン 158 未来のための金曜日 160 抗議の方法：団結する 164
				謝辞 166

社会運動には、成功したものもあれば、残念な結末を迎えたものもある。けれども、これらの抗議が、世界を少しずつ変えてきたことを忘れてはいけない。そして、現代を生きる私たちには、何ができるだろう。この本を読めば、私たちは決して「無力ではないこと」に気づけるはず。

■noteで近日公開！

『プロテストってなに？ 世界を変えたさまざまな社会運動』を青幻舎のnoteで少しでも立ち読みしていただけます。

青幻舎note

<https://note.com/seigensha>